

フィランソロピーは人間愛

ハンディをささえる
モノづくり通信

福祉機器住宅研究会

発行責任者
代表・杉浦史郎
765-4041

制作協力
朝日新聞大阪本社
読者室
電話06(201)8033



「企業ボランティア活動のこれからと展開」を聞く

十月の定例会は、七日に開かれた「企業・労組ボランティア活動連続セミナー」(主催/大阪市ボランティアセンター、会場/大阪市立社会福祉センター)の一日目に参加しました。第一講は大阪府立大学・山縣文治助教授が「大阪市内の企業ボランティア活動のこれからを探る」を、第二講は関西電力(株)地域共生本部・絹川正明課長が「企業ボランティア活動の展開」をそれぞれ講演しました。同セミナーは十一月十八日、明年一月二十日、二月十七日にも企業・労組のボランティア活動についての講演、シンポジウムが開かれます。詳細は大阪市ボランティアセンターへ。ここでは、山縣、絹川両氏の講演要旨を掲載します。

今後の課題は介護休暇

山縣文治助教授

社会福祉が存在するのは①知れ合いの中で助け合う「相互扶助」②目に見えない神仏の実現としての「宗教的動機」③「福祉政策」

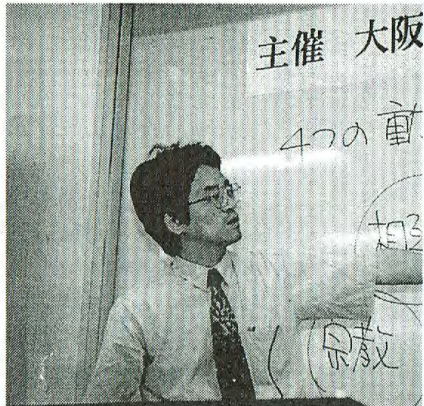
④「愛・信頼の動機」。

①③は身内に対して動くもので、広がりがない。④は「人間愛」で英語でなら「ヒューマニズム」ということ。「愛」はラテン語で「フィロ」、「人間」は「アンソロロジ」、ここから「フィランソロピー」となる。

社会福祉の中ではフィランソロピーは「人間に対する愛」と定義してきた。これは「放って置けない状況」「つまり「不幸なときに起こること」である。従って人間の中にそういう気持ちを忘れてはいけないが、あまり世の中で目立ってはいないと思う。

現在の中心は③「福祉政策」。

主催 大阪



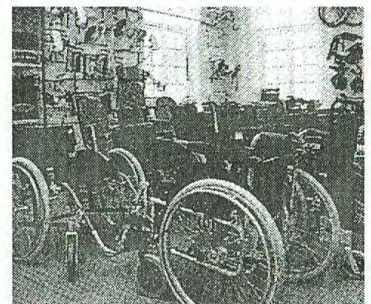
論理的に話される助教授

次に「休暇・休業制度」が以外に多い。これは介護休暇との関連が今後の課題となる。

いずれにせよ大・中・小企業の特性を生かした活動の展開が望まれる。 脇坂記

福祉機器の工房も 石川課長の話に期待

大阪市立社会福祉センターで、九月二日開催された九月の定例会は、大阪市民生局の石川昭男調査課長より「大阪市の高齢対策と展望」と題し大阪市の将来的な施策などをお話していただきました。



スエーデンの福祉機器工房

しよりに配慮した構造や設備を備え、生活相談や安否の確認、急病、事故などの緊急時に対応する生活援助員(LSA)ライフサポート員(LSAバイザー)を二十三十世帯に一名配置するなど、きめこまかく心配りを

訪問看護ステーションを二箇所を三十四ヶ所から五十四ヶ所にと、在宅支援態勢を整えていくとのこと、期待したいものです。

住宅面では、高齢者ケア付き住宅を年間一千戸の割合で建設しており、おと

しよりに配慮した構造や設備を備え、生活相談や安否の確認、急病、事故などの緊急時に対応する生活援助員(LSA)ライフサポート員(LSAバイザー)を二十三十世帯に一名配置するなど、きめこまかく心配りを

てきました。前任時代(高齢化社会対策室・企画調整課長)ご苦労されて作られた「地域ネットワークシステム」も、ようやく町会単位で動き出し、町会で拾い上げたニーズに従って相互支援活動を行っています。

ゆめくは、区の在宅サービスセンターで、様々な支援サービスが即座に受けられるように、カード制の導入も研究されているとのこと、但し国民番号制などクリアしなければならぬ問題も多々ありますが、言われました。

介護用品や日常生活用具の交付や貸与も種類が増えています。

石川課長のお話は、ものづくりの側から福祉に携わっている私たちに元気を与えてくださいました。

なです。

スエーデンの工房が出来るのも夢ではないようです。スエーデンのように、その人に合った使いやすい器具を作ってあげてこそ、在宅で自立した生活が可能なのではないかと。

スエーデンの工房が出来るのも夢ではないようです。スエーデンのように、その人に合った使いやすい器具を作ってあげてこそ、在宅で自立した生活が可能なのではないかと。

熱っぽく語る絹川課長



主催 大阪市ボラン

支援拠点の構築が必要

関電・絹川正明課長

三年前、人事異動で地域共生に配属され、ある共同作業所の一泊旅行に初めてボランティアとして参加した。

障害者の生活実情、多彩なボランティアの関わり、手話の美しさ、障害者を見る世間の目の冷厳さと立場など、その世界はそれまでの自身の価値観を根柢から覆され、仕事として早速稼

三年前、人事異動で地域共生に配属され、ある共同作業所の一泊旅行に初めてボランティアとして参加した。

障害者の生活実情、多彩なボランティアの関わり、手話の美しさ、障害者を見る世間の目の冷厳さと立場など、その世界はそれまでの自身の価値観を根柢から覆され、仕事として早速稼

「筋ジストロフィ」(現代社会福祉事典／全社協)から

「筋ジストロフィ」(現代社会福祉事典／全社協)から

コトバ・ことば

「脳性マヒ(児)」または「進行性筋ジストロフィー」(児)ともいう。発生は遺伝的と考えられ、男児の発現率は、女児の約3倍。幼年期に歩行障害で発見されるが、大人になると「脳性マヒ」と症状が進行して全身に及ぶ。

「脊髄損傷」脊髄は脳とともに中枢神経系を形成する。脊髄管の中で、脳脊髄液に浮かんだ状態で保護される。

脊髄が損傷、切断されると損傷部以下の部位に運動と感覚のマヒが起こる。やがて骨格筋の緊張と深部脊髄反射の亢進が起こる。排尿、排便も困難を来す。脊髄前角(前柱)を侵す「ポリオ」は後遺症として運動マヒを残す。

「筋ジストロフィ」(現代社会福祉事典／全社協)から

机の改造で快適勤務

がまんしていた、依頼のあった区役所の担当の方からも感謝の言葉をいだきました。

今回のケースでは、芝さんを始めとするココヨ(株)の暖かい支援があったから実現出来たので、改めて感謝の意を表したい。ありがとうございました。

浴槽の上にすのこ

後9・10月のご寄付
 佐藤秀樹さん、大塚尊昭
 さん、石川昭男さん、八木
 道夫さん
 園 園長新聞英夫氏
 事例報告その他
 《二月》
 日時・二月三日（土）
 午後一時半～五時
 場所・大阪市立社会福
 祉センター三階
 テーマ「ニードを允た
 す手すの考」
 発表者・鴻上敬二氏
 事例報告その他